重要文化財 称念寺本堂
保存修理現場見学会

平成30年5月
主催 宗教法人 称念寺
奈良県教育委員会
称念寺の歴史

称念寺は、福原市今井町に所在する浄土真宗本願寺派の寺院です。今井町は、この称念寺を中心に発展した寺内町で、近世は商業都市として栄えました。現在は、重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

称念寺の興りは、16世紀前半に遡る今井の浄土真宗宗教団と考えられ、「称念寺」という寺号は慶長5年（1600）の掛軸に初見されます。

現在の本堂は、今回の工事で取り外された部材に、寛永18年（1641）の年号が刻まれていたこと、さらに、発掘調査において基礎地業の下から寛永通宝が出土したことから、この頃に建設された建物だということが明らかになりました。

寛永期の称念寺は、本山である本願寺の別院としての役割を担った「御坊」となったため、建物が建て替えられたと考えられます。

次いで、元禄8年（1695）には門主の下向にそなえ、南西角に対面所を新築しています。

また、建設から180年経った江戸時代末期（文政〜弘化、1820〜40年代）に、大修理があたったことも史料や部材に記された年号から明らかになりました。

今回の工事では、現在の称念寺全体の建物が整った、江戸時代末期の姿に復原修理をします。
●本堂の修理工事
【木部組立て】
木部はできる限り元の部材をそのまま使用して組み直しています。雨漏りや虫食いを防ぐため取り組み、今後の耐久性が疑われるものは取り替えました。また部材は屋根裏等に保存しています。

【左官工事】
本堂は、正面以外の軒裏は、土壁になっており、土蔵の様な造りをしていました。竹を織って編んで下地をつくり、そこに壁土（粘土土に薬を入れておかせたもの）を塗っていきました。

【屋根工事】
屋根は、平瓦と丸瓦を組合させて葺く、本瓦葺きという工法で、平瓦は約22,000枚、丸瓦は約10,300本使用します。この内、古い瓦は3割程度再用することができました。
瓦の下地は、以前は土でしたが、今回の工事では、屋根の重量を軽くするため、木の棟を使用しています。

●耐震補強工事
今回の修理工事では、耐震補強工事も同時に実施しています。
①基礎工事
地盤沈下を防ぐため、コンクリートのべた基礎を施工しました。

②補強工事
床下で柱同士を繋ぎ合わせる補強材を本堂全体に入れました。また、天井裏で、正面の向拝を繋ぐ新材を入れました。
【本堂の組立て状況】

活動までの経過

今回の保存修理工事は、称念寺からの委託を受け、奈良県教育委員会文化財保存事務所が行っています。事業は、平成22年4月に着手し、平成34年3月に竣工の予定で、総事業費は約20億円となる見込みです。平成27年に本堂を全て解体し、発掘調査と基礎工事を実施。平成28年より順に組み立てを行っていきました。現在は屋根がほぼ完成し、今年から来年にかけて、本堂の覆屋を撤去する予定です。

今後は本堂の内部工事と共に、覆屋建築で解体した、対面所・鐘楼・客殿・庫裡・土塀の復旧工事を順次行っていきます。

奈良県教育委員会事務局文化財保存事務所
〒630-8502 奈良市登大路町30 tel 0742-27-9865 fax 0742-27-5386